

第一生命グループの事業

第一生命グループは、生命保険事業(引受け・販売)を中核として、保険事業を遂行していく上で必要な事業、資産運用関連事業等を行っています。

近年は、国内の生命保険事業の取組みを強化するとともに、アジア地域を中心としたグローバルな事業展開を進めています。さらに、国内の人口構造変化に伴い、

ニーズが高まりつつある個人貯蓄分野において第一フロンティア生命を設立するなど、社会環境の変化に応じて成長が見込まれる事業に積極的に投資を行っています。

また、業務提携先と強力なパートナーシップを形成して、お客さまの「生涯設計」に資する損害保険・がん保険・金融商品を幅広く提供しています。

第一生命グループの事業領域と業務提携先



業務提携先

SOMPO JAPAN
(株)損害保険ジャパン
 包括業務提携により生損保両分野をはじめとした互いの強みを生かし、「最強・最優の総合保険グループ」を目指しています。

Aflac
 「生きる」を創る。
アフラック
 (アメリカンファミリー生命保険会社)
 業務提携により対等なパートナーとして互いの強みを生かし、「(保険の)第一分野と第三分野の最強のパートナーシップ」を目指しています。

MIZUHO
みずほフィナンシャルグループ
 金融商品・サービスの相互補完、資産運用・管理業務、合弁会社設立等において緊密に連携しています。

RESONA
(株)りそなホールディングス
 保険分野を中心とした業務分野において、高度化・多様化するお客さまニーズに対して、より良い商品・サービスの提供を協調して行っています。

お客さまに保険金・給付金をお支払いするときこそが保険の役割が果たされるとき

当社は、生命保険事業が世の中に提供している本質的な価値は「一定規模以上の大きな保険加入者のプールを作って、そこに相互扶助の働きを起こす」ことにあると考えています。

生命保険は相互扶助の仕組みで成り立っており、生命保険に加入することにより、負担を最小限に抑えながら、遺族の生活資金や老後の備え、介護・病気・ケガなどに対する保障を準備することができます。そして、保険会社から支払われる保険金・給付金は多くの人々の生活を支えています。

当社は、この生命保険の社会的役割を自覚しつ

つ、社会との調和ある持続的な発展を通じて、お客さまから最も支持される生命保険会社を目指してまいります。

保険金・給付金・年金等のお支払状況 (平成20年度)

	支払額	前年度比
死亡・高度障害・特定疾病等保険金	4,787億円	94.8%
入院・手術等給付金	1,123億円	100.0%
満期保険金・生存給付金・年金等	12,892億円	110.8%
合計	18,803億円	105.6%

中期経営計画

当社は、2008-10年度中期経営計画「Value up 2010」に取り組んでいます。

2008-10年度 中期経営計画「Value up 2010」

品質保証と生産性向上の同時追求

●中核事業の競争力強化

中核事業である営業職員生命保険事業においては、営業職員の育成を一層強化することで、当社の商品・サービスに対するお客さま満足度の向上を目指します。また、効率的な組織運営体制の構築や事務フローの見直しを進めることにより、生産性向上を図ります。

●成長市場への積極投資

海外生命保険市場や銀行窓販等貯蓄市場などの成長が見込まれる市場においては、リスク管理を徹底しつつ、中長期の利益成長に裨益するべく、引き続き取組みを強化してまいります。

株式会社化・上場の完遂

左記戦略の実現に向けて、より柔軟な経営戦略を取り得る株式会社化と証券取引所への上場に向け、当社の総力を挙げて取り組み、上場に相応しい企業グループとしての体制を整備してまいります。

「人財」が成長を支える態勢の確立

最も重要な経営資源は人であり、人財こそが「競争力」の源泉であると考えます。企業価値の向上に向けて、役員一人ひとりの価値を高めるための取組みを推進してまいります。